



番組ガイド

桃太郎

「滋賀経済NOW」

放送 22日(土)午後10時~10時30分

再放送 23日(日)午前8時~8時30分

まちづくりの設計や企画から施設の運営まで関わる草津市の株式会社「ウイルスステージ」。大津市青山の「プロムナード青山」も手掛け、豊かなライフスタイルの提案を続けていますが、現在は水質浄化事業、さらには、その技術を活用した陸上事業も展開しています。

「ウイルスステージ」

そのシステムは、自然界に備わる浄化作用をヒントにしました。「ここで初めて魚と触れ合う子どももあり、心地よい季節には多くの家族連れでにぎわう」と言います。周囲の雨水を溜めて循環するのでエコの観点からも優れています。

その難しさを知りながら、大谷洋士社長が、子どもに様々な生き物が共存する水辺をと、周囲の反対を押し切って設置。予想どおり大量のプランクトンが発生、社長自らブラシを持って清掃しましたが、いつまでも続かないと、システムの開発に乗り出しました。

そのデータを元に着手からわずか数ヶ月で、約1・5坪の水底まで目視でき、庭園がより美しく映るようになりました。この実績で同システム

そのビオトープの噂を聞き、水質浄化を依頼してきたのが世界遺産の京都府宇治市の平等院。阿字池はアオコの増殖が進み、酸素不足で水が茶色くなることもありました。



プロムナード青山に設置されたビオトープ

現場には潜入。海のない滋賀で陸上養殖の夢が広がっています。出発は子どもたちが豊かな水辺を与えたいという思い。その思いを忘れずに水質浄化でチャレンジを続ける同社をぜひチェックしてください。

さらに、その技術を用いて県内のある施設内の水槽で養殖を行っています。魚の飼育に重要な水の管理はデリケートで、定期的な入れ替えや大量使用などランニングコストも無視できません。それゆえ、元気なトラフグやヒラメを養殖可能にした同社の技術に専門家も驚きました。実証実験もほぼ終わり、出荷が可能な段階です。

極めつけは、6月に手掛けた皇居の外豪の浄化です。試験的ですが、一定の成果を上げたとのこと。五輪を控えた東京都にとって美しい水辺を形成するのは重要なミッション。本格的なプロジェクト始動はまだですが、滋賀の企業がその一翼を担う可能性があるので。



水質浄化への思いを語る大谷社長

水底まで見えるビオトープ

水質浄化や陸上養殖も

プロムナード青山に設置されたビオトープは水底まで見え、夏には子どもたちが魚をすくいに来るとか。同社が開発した水質浄化システムによるものです。人工的な水辺は夏場、植物プランクトンで水質が悪化、川のような自然浄化が難しく、維持管理が大変です。

年末を迎え、通安安全協会竜王が竜王町小口のインドマート竜王や飲酒運転のた。毎年、同社夫を凝らした君風物詩にもな。客らが足を止め

今年は男性4し、「やめんが一掃だ!!」と書本とチラシを布。桃太郎の男の掃除を掛けの撲滅を呼びた人たちも「こがとう」と笑顔

近江八幡署の管内でも交通の検挙が多いの大前セツ子太郎と出合っ。と話し合い、魚よういっそう。しい」と話し



高橋紫微さん



◆overflow

23日午後5時守山市民ホー)の高橋紫微さん森下真衣さん「フルーツ協1楽章」や、「クリスマス」「星に願いを」料。問い合わせ

1歳おん、活発んとたく高島市

山本

ゆいな1年でう。これくなって

材 経